

2010年3月31日

ご参考資料

Follow
Up
Memo

フォローアップメモ

S&Pによるアイスランドの格下げについて

nikko am
fund academy

格付会社のスタンダード&プアーズ（以下、S&P）は30日、アイスランドの自国通貨建て長期債務格付けをBBB+からBBBへ1ランク引き下げたと発表しました。これは、今年1月のフィッチ・レーティングス（以下、フィッチ）による格下げに次ぐものです。ただし、フィッチが外貨建て長期債務の格付けも同時に引き下げたのと異なり、S&PはこれをBBB-で据え置いています。（アイスランドに対するS&Pの長期債務格付けは、自国通貨建てのBBB、外貨建てのBBB-とも、投資適格級にあたります。）

S&Pによる今回の格下げは、破綻したアイスランドの大手銀行に預けられていた英国およびオランダの預金者の資金の補償問題に関して、3ヵ国間の交渉に進展が見られないことを背景としています。S&Pは、同交渉が長期化すれば、アイスランドへの海外からの投資や、アイスランドの海外資金調達力などに影響が及ぶと判断し、今回の格下げに至っています。

ただし、上記の交渉に時間を要している点を除けば、アイスランドの状況は改善に向かっていると考えられます。S&Pも、アイスランドの短期的な見通しは安定しているとの見解を示しており、その主な理由として、アイスランドの連立政権が年内に退陣するような状況にはなく、政治面でのリスクが低下していること、貿易・サービス収支が黒字に転じていること、通貨アイスランド・クローネの対ユーロ相場が年初と比べて4%程度上昇していること、などを挙げています。また、景気に関しては、前年比二桁減との厳しい予想もあったアイスランドの2009年のGDP成長率が▲6.5%となり、大幅な落ち込みを回避しました。S&Pは、2010年にはアイスランドの景気が落ち着きを取り戻すと見込んでいます。さらに、S&Pは、アイスランド向け融資実施の前提となるIMF（国際通貨基金）の2回目の審査が、向こう数ヵ月のうちに開始される可能性があるとの見解を示しています。

上記の補償交渉については、明確な期限が設けられていないこともあり、結論が出るまでに今しばらく時間を要するとみられます。なお、英国では今年6月まで（5月上旬が有力）に、オランダでも6月9日に総選挙が行なわれることから、交渉妥結がこれら選挙の後になる可能性もあります。当面は、アイスランド経済の改善状況に加え、交渉の進捗や各国の歩み寄り状況などを注意深く見守る必要があります。

以上

＜ご参考＞ 主要格付会社によるアイスランドの長期債務格付け（2010年3月30日現在）

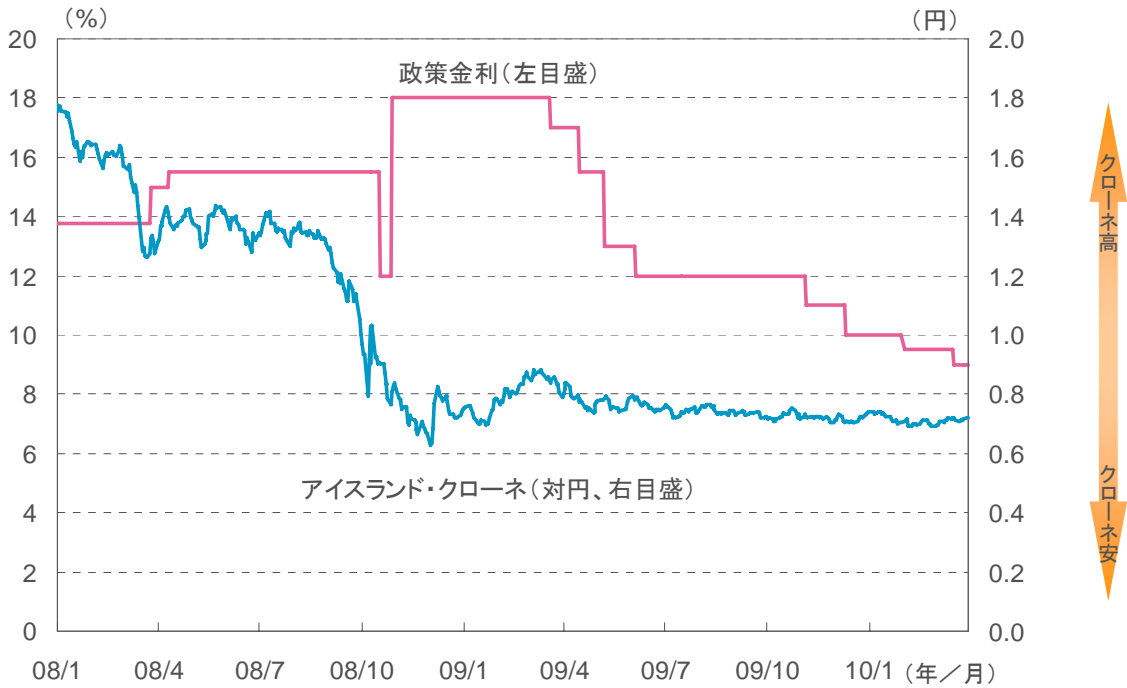
	S&P	ムーディーズ	フィッチ
自国通貨建て長期債務格付け	BBB	Baa3	BBB+
外貨建て長期債務格付け	BBB-	Baa3	BB+

※上記格付は過去のものであり、将来変更となる可能性があります。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ご参考:政策金利とアイスランド・クローネの推移

(2008年初～2010年3月30日)



(信頼できると判断したデータを基に日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ、データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。